

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 12 月 16 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	木下勇貴

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、鹿児島県、屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平 30 年 11 月 3 日 ~ 平成 30 年 11 月 9 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター、杉浦秀樹博士
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
鹿児島県屋久島でフィールドワーク実習に参加した。私は DNA 班に所属していたが、実習の4日間のうち2日間はホルモン班の活動としてシカを追跡した。
11/3 移動 犬山→屋久島 11/4 調査 サル糞採集 11/5 調査 サル糞採集 11/6 調査 シカ追跡 11/7 調査 シカ追跡 11/8 データ分析、プレゼンテーション 11/9 ヤクスギランド見学 移動 屋久島→犬山
11/4, 5 のサル糞採集では、主に屋久島の南部林道沿いでルートセンサスを行い、ニホンサルの糞から DNA サンプルを採集した。採集した DNA サンプルは、屋久島実習後に霊長類研究所にて行われたゲノム実習において分析した。11/6, 7 のシカ追跡では、西部林道付近に生息するヤクシカを個体追跡して糞サンプルを採集した。同時に行動、音声データを記録した。ヤクシカの糞サンプルは、野生動物研究センターにて行われたホルモン実習において分析された。
私は霊長類の形態学を専門にしているがフィールドに出ることはほとんどない。本実習によってニホンザルの生息する環境に身を置くという貴重な経験を得ることができた。また、本実習での議論はほとんどが英語であったが、自分の考えを上手く表現できない場面が多々あった。自らの英語力を向上させる必要性を感じるとともに、日本語においても意思を適切に伝える能力を磨くことが重要だと感じた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ヤクザルの親子



屋久島の夕日



仏陀杉 (ヤクスギランド)

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの御支援のもと行われました。この場を借りて御礼申し上げます。また、今回の実習においてご指導いただいた杉浦秀樹准教授、揚妻直樹准教授、揚妻芳美氏、澤田晶子氏、鈴木崇文氏、谷口晴香氏、本田剛章氏に感謝申し上げます。